



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/23 (月)				振替休日			米: S&Pグローバル製造業・サービス業・総合PMI (9月) 欧: ユーロ圏製造業・サービス業・総合PMI (9月)
9/24 (火)	トン	+ 7,900	+ 7,900	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 19,400		米: 消費者信頼感指数 (9月)
9/25 (水)	トン	+ 1,000	+ 1,000	流動性供給			
9/26 (木)	トン	+ 2,700	+ 2,700				日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月30日・31日分) 米: GDP (2Q)
9/27 (金)	トン	▲ 20,000	▲ 20,000	国債発行 (40年) 各種財政資金の貸付回収			日: 自民党総裁選投票 米: PCE価格指数 (8月) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,500億円増加の542兆1,900億円から始まった。その後、国債大量償還や利払い等の要因により増減し、20日は547兆9,900億円 (速報) まで増加し越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.228%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.23%~0.30%のレンジ、1M~3M物0.30%~0.35%のレンジで出が見られた。

また、日銀は19日・20日に開催した金融政策決定会合において、現状の金融政策維持を決定した。

来週の予定は、国内では、日本では9月26日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月30日・31日分) の公表、27日に自民党総裁選の投票。海外では26日に米GDP (2Q)、27日に米PCE価格指数 (8月) の公表などがある。

<レポ>

足許GC取引は週を通して+0.23%~+0.25%の出合いが中心となった。輪番オペがオフアされた週央も水準に変化は見られず、金融政策決定会合2日目となる週末も+0.23%~0.24%が取引の中心となった。

SC取引は2年460~464回債、5年149~172回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約9,500億円で、週間償還額の9,100億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆9,512億円から、9月19日時点で24兆3,718億円に増加した。

発行市場は鉄鋼、機械、卸売業、ガス業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%台前半での出合いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、約4兆4,400億円となっている。発行市場は、半期末の有利子負債圧縮に向けた動きから償還超となる見込み。発行レートは、1M物では0.25%近辺での出合い、3M超の案件については0.30%台前半~0.30%台後半での出合いが散見されるであろう。

<TDB>

18日の1Y (1257回債) の入札は、最高落札利回り0.2762% (前回債0.2536%)、平均落札利回り0.2622% (前回債0.2255%) となった。

19日の3M (1258回債) の入札は、最高落札利回り0.0567% (前回債0.0669%)、平均落札利回り0.0498% (前回債0.0567%) となった。

来週の入札は、27日に3Mが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50